

鎌倉おもちゃ屋物語

くろすかずきよ

その11

面白駄玩具の紹介と
新米おもちゃ屋の
どたばたエッセイ!

日本のあちこちにいるディープなおもちゃ好きの方たちは時折おもちゃ自慢大会のような催しを開きます。旬の情報をチェックして自分のおもちゃ情報誌に載せるため、まめに参加しに行くのが、うちに月に一度ぐらいやって来る発信系おもちゃマニアのキントトさん。

キントトさんはそんな催しで手に入れたおもちゃを時々お土産に持って来てくれます。いわばこの時代最先端の駄玩具！例えば「しゃべるヒモ」。

解説が印刷されたハガキ大の紙に

赤いビニールのヒモがセロハンテープでとめてあるだけのまるで実験途中みたいな代物。でもこのヒモ、左手でハガキのヒモの付け根あたりを持ち、右手の親指と人差し指でヒモに爪を立てるように下にこするとしゃべるんです！

「おはよう！」と「がんばって！」と「あなたがすきよ！」の3種類。あまりに不思議で面白いのでゆうほやは、なんとお客のキントトさんから仕入れるという逆転商売をしてしまいました。

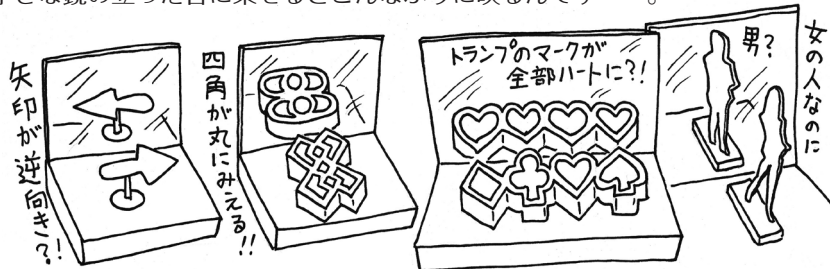
また
来ちゃいました！



ためたい
人は
お店に
きこね



その数か月後に持って来てくれたお土産は「鏡に映すと形が変わる物体！」小さな鏡の立った台に乗せるとこんなふうに見えるんです……。



イラストは大雑把に描いてありますが、本当の形はもっと微妙なへこみや出っ張りが付いていてちょうど目線の角度で違う形に映るように作られているわけです。こういう形を真剣に研究しているおもちゃ作家がいらっしやる。拍手！

見たい人は
お店に
きこね



黒須和清 1955年東京生まれ。横浜在住。
洗足こども短期大学教授として手作りおもちゃや人形劇
を教えるかたわら、ペーパークラフトや執筆活動、研修
会講師の仕事などで忙しい。

ブームになる駄玩具というのが時々あります。

最近では「ハンドスピナー」という、ただ指の間で回すだけのおもちゃがヒットしました。「しゃべるヒモ」も「違う形に映る物体」もハンドスピナーよりは断然面白いと思うのにヒットはしないのでしょうか。お店を始めた頃に次々売れていた「ヘビごま」や「バック転ガエル」もなぜか最近は全然売れません。まるでタレントのように急に人気が出たり、いつの間にか人気がなくなったり、そんな浮き沈みが駄玩具にもありますね。

爆発的には売れないけど私の子どもの頃からあっていまだにある、長い安定人気を保っていて、皆に懐かしいと言われる大御所様たち。



急にブームになって爆発的に売れたのにすぐブームが去って第一線から消えた「一発屋芸人」おもちゃ。



この二つのタイプの間ぐらいに、テレビにはあまり出ないけど「知る人ぞ知る」「マニアが好む」人気タレントのようなおもちゃがあります。

私やキントさんはこのあたりのタレントが琴線！



でもこの仲間たちの生き残り競争はシビア。これは製造側の事情なのですが、駄玩具というのは単価が安いので大量に製造しないと稼ぎにならない、そしてそれがほぼ全部売り切れないと次の製造がされない。また、売り切れるまでに時間がかかるとなかなか復刻されずそのまま消えてしまう運命なのです。

先月「シュルシュルパイプ」が徐々に復刻されました。

敗者復活で返り咲いてきたタレントに大拍手！

お宝のケースの中で1000円だったものが

300円に大暴落。でもうれしい！マニアだけでなく

たくさんの人に知られて、長生き安定の大御所

おもちゃになってほしい、これがわれわれの願いです。

